

# Metastatic tumor of the spermatic cord from lung cancer: A case report

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/40149">http://hdl.handle.net/2297/40149</a>

## 肺癌原発転移性精索腫瘍の1例

岩佐 陽一\*<sup>1</sup> 小松 和人 並木 幹夫 笠原 寿郎\*<sup>2</sup> 藤村 政樹 湊 宏\*<sup>3</sup>

\*1 金沢大学泌尿器科 \*2 同第3内科 \*3 同附属病院病理部

**要旨：**症例は60歳，男性。肺腺癌の診断にて当院第3内科入院中，右陰囊内容の挙上と圧痛を主訴に当科を受診した。理学所見，画像検査から右精索腫瘍と診断し，精索腫瘍を含めて，高位右精巣摘出術を施行した。病理組織学的には乳頭状腺癌であり，肺腺癌の右精索転移であると考えられた。転移性精索腫瘍は比較的珍しく，われわれが調べた限りでは，本邦71例目であり，肺原発のものは2例目である。

**key words** 転移性精索腫瘍，肺腫瘍

### はじめに

精索に発生する腫瘍は比較的稀であるが，時に悪性腫瘍が精索に転移する場合もある。今回われわれは精索に転移した肺癌の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

### I. 症 例

**患者：**60歳，男性。

**主訴：**右陰囊挙上，圧痛。

**既往歴：**30歳時，肺結核。

**家族歴：**弟が胃癌。

**現病歴：**1997年1月頃より右胸部痛が出現し，近医を受診したところ胸部X線写真にて右上肺野に異常陰影を認めた。精査目的に福井循環器病院に紹介受診したところ，胸部CTにて上大静脈後方に約2cmの腫瘍と胸膜播種を疑われた。気管支鏡を施行し擦過細胞診にて肺腺癌の診断を得た。1997年4月27日に金沢大学第3内科を紹介受診しシスプラチン，イリノテカンによる化学療法を3コース施行したところ肺腫瘍は46%の縮小率にて改善し7月25日に退院した。その後，外来通院にて経過観察していた。

1998年3月頃より右陰囊の挙上と圧痛を認めため，1998年5月25日に金沢大学医学部泌尿器科を受診した。同時に上腹部に約10cmの腫瘍を認めた。右陰囊内腫瘍の診断にて入院，精査を予定していたところ，肺癌の精査加療を目的に7月16日金沢大学医学部第3内科に入院した。

**入院時現症：**右側上肺野呼吸音の低下を聴取した。右上腹部に約10cmの腫瘍を触知，右陰囊上方に圧痛を伴う腫瘍と右陰囊内容の挙上を認めた。

**入院時検査所見：**WBC 10600 /mm<sup>3</sup>，CRP 1.6 mg/dl，アミラーゼ 338 IU/l，その他の一般検査については異常を認めなかった。腫瘍マーカーではAFP 10 ng/ml未満，HCG-β 0.10 ng/ml未満，PSA 1.3 ng/ml，γ-Sm 1.2 ng/mlと正常範囲であり，CEAは5.9 ng/mlとやや高値を示した。

**画像診断：**CTでは右精索に一致して不均一に造影される腫瘍を認め、超音波検査でも精索に連続して辺縁不整の低エコー腫瘍を認めた。上腹部腫瘍に一致したCT (図1) では，腹壁直下に連続する大網腫瘍を認めた。また，骨シンチでは多発性骨転移を認めた。

以上の所見から原発性精索腫瘍あるいは転移性精索腫瘍を疑い，1998年8月3日，腰椎麻酔下に精索腫瘍を含めて高位右精巣摘出術を施行した。摘出標本は精索から精巣上体，精巣の一部にまで伸展する腫瘍を認め，腫瘍断面は灰白色で充実性であった (図

\*1 金沢市宝町13-1 (0762-62-8151) 〒920-8641  
2001年5月11日受付



図1 CT  
腹部CT：上腹部に触知した腫瘍と一致したスライスでは腹壁直下に連続する大網腫瘍が認められた。

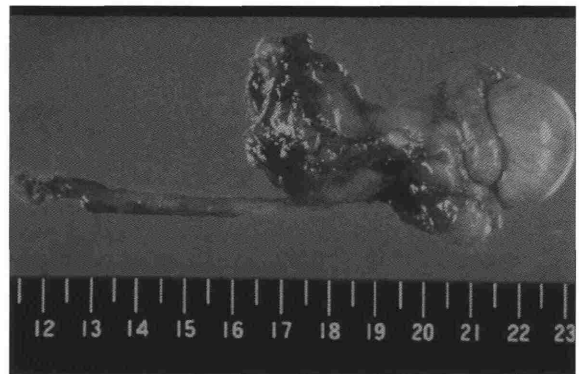
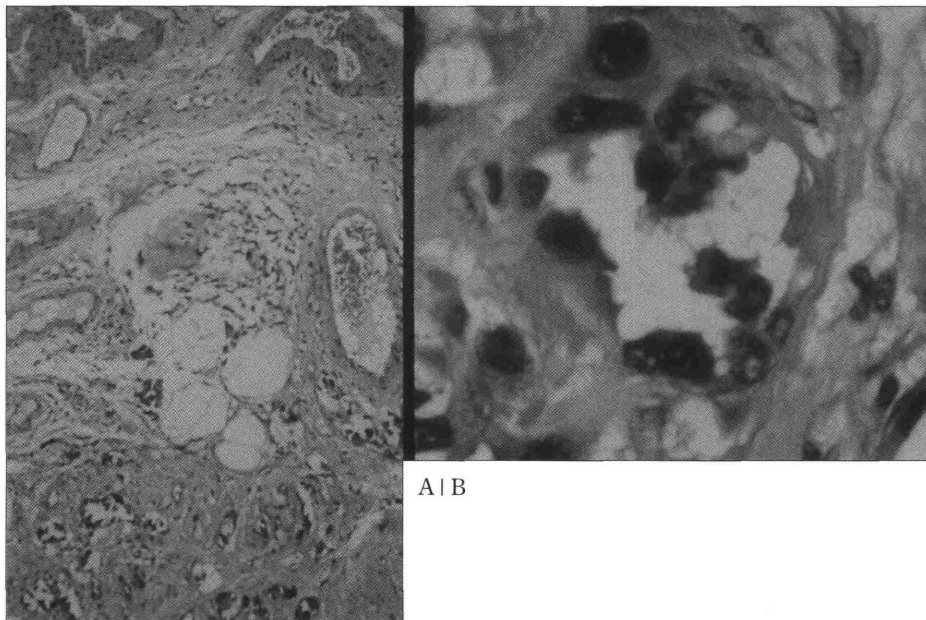


図2 摘出標本  
精索から精巣上体、精巣の一部にまで伸展する腫瘍を認めた。腫瘍断面は灰白色で充実性であった。



A|B

図3 病理所見  
A：精索に線維間質を伴う腺癌の増殖性浸潤を認めた。(HE染色，×100)  
B：肺腺癌の転移性腫瘍に特徴的な乳頭状腺癌。(HE染色，×400)

2)。

**病理所見：**精索に線維間質を伴う腺癌の増殖性浸潤を認めた(図3A)。精管内、静脈内への腫瘍浸潤も認め、精索断端にも腫瘍を認めた。また、腫瘍は精巣上体から一部精巣にまで浸潤していた。組織像は肺腺癌の転移性腫瘍に特徴的な乳頭状腺癌を示した(図3B)。

**手術後経過：**術後、第3内科へ転科し、パラプラチン、タキソテールによる化学療法を行った。

## II. 考 察

精索腫瘍は比較的稀な疾患であるが、そのうち、転移性腫瘍は比較的多く、本症例を含めて本邦で71例の報告がある。原発巣は消化器系腫瘍が大部分を占めており、その中でも胃癌が半数以上を占めてい

る。瀬尾ら<sup>1)</sup>が本邦において報告された症例のうち33症例を調べたところ、69%が胃癌を占め、大腸癌が11%を占めていた。しかし、肺癌からの転移は鈴木ら<sup>2)</sup>が報告した1例をみるのみである。注目すべきことは、半数以上の症例は原発巣の発見よりも転移巣の発見が先立っていると報告されていることである<sup>1)</sup>。また、西村らによる統計によると年齢は35～79歳までで、平均56.9歳である。転移部位では、のべ38箇所のうち、右側23例、左側15例、そのうち両側は6例であった。主訴は、いずれも鼠径部もしくは陰囊内容の腫瘍であり、無痛性のものが多いが、有痛性のものも認められ、鼠径部の牽引痛を訴えたものもある<sup>3)</sup>。

精索、精巣上体への転移経路については1) 逆行性リンパ行性、2) 直接浸潤、3) 動脈行性転移、4) 静脈逆行性転移、5) 精管逆行性転移の5種類考えら

れている<sup>1-5)</sup>。逆行性リンパ行性転移は主に消化器癌において後腹膜リンパ節を介して転移すると考えられている。直接浸潤は精巣などの隣接臓器からの浸潤や鼠径ヘルニアを合併しているときなどに鼠径管を通して転移すると考えられている。動脈行性転移はあまり多くない。というのは、転移性精索腫瘍の大部分を占める消化器癌の場合、血流が門脈系を介してまず肝臓に流入するためである。静脈逆行性転移は主に左腎癌において精巣静脈を逆行性に進展して精索内の蔓状静脈巣に腫瘍塞栓を形成して転移を起こすと考えられている。精管逆行性転移は前立腺からの転移経路として考えられているが、逆行性管腔性転移だけではなく精管筋層内を逆行性に浸潤したり精管に伴走するリンパ管を介して逆行性リンパ行性転移も起こりうるとHowardら<sup>6)</sup>は報告している。本症例の場合、大網に転移を起こしていること、精索断端が病理学的に陽性であったこと、精管内、静脈内にも腫瘍浸潤が認められたことから、動脈行性に大網転移を起こし腹膜播種から鼠径管を経由して精索に転移したことがもっとも考えられる。

西村ら<sup>3)</sup>の統計によると、精索への転移巣に関しては、全例摘出されているが、原発巣の進行した時期に発見されるものが多く、予後は、不良である。

精索腫瘍が発見された場合、転移性精索腫瘍を考

えて、摘出標本の組織像を十分検討する必要がある。原発巣の検索には、消化器癌の検索がまず必要と考えられるが、腎尿路生殖系癌の検索に加えて、稀ではあるが、肺癌の検索にも注意を払うべきである<sup>2)</sup>。

なお、本論文の要旨は第381回日本泌尿器科学会北陸地方会にて発表した。

## 文 献

- 1) 瀬尾一史, 加登本幸久, 中津 博, 他: 胃癌を原発とする転移性副睾丸腫瘍の一例. 西日泌尿, **49**, 133-136, 1985.
- 2) 鈴木 薫, 旗福文彦, 小成 普, 他: 精索転移で発見された肺癌の一例. 西日泌尿, **58**, 133-135, 1996.
- 3) 西村一男, 吉村直樹, 山本 敏, 他: 転移性精索腫瘍(結腸原発)の一例. 泌尿紀要, **29**, 907-910, 1983.
- 4) 公文裕巳, 難波克一, 村尾 烈, 他: 陰囊内転移性腫瘍の一例. 西日泌尿, **44**, 249-255, 1982.
- 5) 今村正明, 大森孝平, 西村一男: 胃癌原発転移性精索腫瘍の一例. 臨泌, **52**, 435-437, 1998.
- 6) Howard, D. E., et al.: Carcinoma of the prostate with simultaneous bilateral testicular metastasis.: Case report with special study of routes of metastases. J.Urol., **78**, 58-64, 1957.

## Abstract

### Metastatic tumor of the spermatic cord from lung cancer: A case report

Youichi Iwasa<sup>\*1</sup>, Kazuto Komatsu, Mikio Namiki, Kazuo Kasahara<sup>\*2</sup>, Masaki Fujimura and Hiroshi Minato<sup>\*3</sup>

Department of Urology, Kanazawa University School of Medicine<sup>\*1</sup>; The 3rd Department of Internal Medicine, Kanazawa University School of Medicine<sup>\*2</sup>; Department of Pathology, Kanazawa University School of Medicine<sup>\*3</sup>

A 60-year-old patient with the complaint of pain and elevation of right scrotal contents, who had been treated for lung adenocarcinoma, was suspected spermatic cord tumor and underwent high orchiectomy. The tumor proved to be adenocarcinoma pathologically. In Japanese literature, 71 cases of metastatic tumor of the spermatic cord are reported including the present case. To our knowledge, only a case of metastatic tumor of the spermatic cord arising from lung cancer has been reported in Japanese literature.

**key words:** metastatic tumor of spermatic cord, lung cancer

Jpn J Urol Surg15 (1): 41~43, 2002